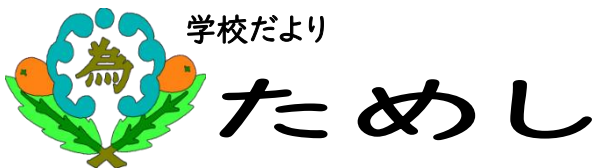




為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~ 地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども ~」



学校だより

- 楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
- 正しく めあてを しっかり守る
- たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



←HPを登録
してください。

令和6年5月8日号

文責 上久木田雄二



ウェルビーイング

「誰一人取り残さない」「誰一人不幸にしない」というフレーズを最近よく耳にします。

これらはおそらく、今、全世界を巻き込んで推進されている「SDGs」や「ウェルビーイング」の考え方に則っているのだと思います。

世界の人々の幸せを目指して、社会のあるべき姿のゴールを示したものが「SDGs」であると私は理解しています。

ではなく、子どもも同様です。人だけでなく、人を取り巻く環境(生活環境や労働環境)も含まれていることが知られています。

ウェルビーイングは、WHO(世界保健機関)が示してきた「健康」の概念そのものであると見直されていることも確かです。

私は、ウェルビーイングの考え方で一番大切なことは、

(3)一人ひとりそれぞれ異なる姿があり、様々な共通の要素が影響しあっていること(多様性・多面性)

であると考えています。

子どもたちには、始業式の日に次のような言葉で話をしました。

笑顔は、自分の笑顔も大切ですが、友だちや周りの人の笑顔も大切にしなければいけません。人の苦しみの上に、自分の笑顔があってはいけないということでしたね。

今年度の めあての一つは、「自分の笑顔以上に、周りの人を笑顔にしましょう」にします。

この考え方は、一方的なもの考え方への警鐘でもあります。

私が子どもたちに感じ取ってほしいのは、

「お互い様」や「自戒の念」

です。

自分と同じように、友だちや周りの人・周りの家庭には、それぞれにもの見方・考え方があることは、「家庭教育の自主性」という言葉で確保されていることを、理解し、実感し続けることが大切だと思うのです。



それぞれの目標が達成された世の中は、本当に幸せであると心から思いますし、私もそんな世界に住みたいと思います。

ウェルビーイングの考え方は、もう少し具体的なのかもしれません。

自分にとっての幸せが

(1)自分自身で実感できていること(主観的)

(2)その実感が続いていること(持続的)

(3)一人ひとりそれぞれ異なる姿があり、様々な共通の要素が影響しあっていること(多様性・多面性)

ウェルビーイングの考え方の対象は、大人だけ

